TAKENAKA CARPENTRY TOOLS MUSEUM
公益財団法人 竹中大工道具館

PRESS RELEASE

[竹中大工道具館開館35周年記念巡回展]

木組　分解してみました

KIGUMI

2019 10/12 SAT ▶ 12/15 SUN

竹中大工道具館 1F ホール

関連イベント

EVENT Workshop, Lecture & Seminar

〈ワークショップ〉
子どもが乗れちゃう！ 錦帯橋 1/5 模型の組立て
日時＝2019 年 10 月 12 日［土］　＊雨天中止
①10:30～12:00、②13:30～15:00
場所＝竹中大工道具館特設会場
講師＝岩国市錦帯橋課
定員＝申込不要、どなたでもご参加いただけます。
参加費＝無料（別途入館料が必要）

〈「技と心」セミナー〉
[96] 宮大工が語る木組の話
日時＝2019 年 10 月 19 日［土］
①10:30～12:00、②13:30～15:00
場所＝竹中大工道具館地下 2F 木工室
講師＝神田定秀（大工棟梁／播磨社寺工務店代表取締役）
定員＝各回 20 名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）
参加費＝無料（別途入館料が必要）
申込締切＝9 月 27 日［金］必着

〈ワークショップ〉
組子コースターづくり
日時＝2019 年 12 月 6 日［金］、7 日［土］
①10:30～12:00 (12/7 のみ)、②13:30～15:00 (両日)
場所＝竹中大工道具館地下 2F 木工室
講師＝栄建具工芸
定員＝小学 4 年生以上の方 各回とも 20 名
※小学生は保護者要同伴（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）
参加費＝1,500 円（別途入館料が必要）
申込締切＝11 月 8 日［金］必着

〈「技と心」講演会〉
木組とは何か
日時＝2019 年 11 月 23 日［土・祝］ 14:00～16:00（13:30 開場）
場所＝ラッセホール 2 階大会場（神戸市中央区中山手通 4-10-8）
講師＝谷直樹（大阪くらしの今昔館館長）
阿保昭則（大工棟梁／耕木社代表）
須田賢司（木工家／人間国宝）
横田栄一（建具師／栄建具工芸代表）
定員＝先着 200 名、申込不要
参加費＝無料（竹中大工道具館入館の場合、別途入館料が必要）

※イベントの日時・内容は変更になることがあります。最新の情報は「木組　分解してみました」展公式ウェブサイトにてご確認ください。

〈関連イベント申し込み方法〉
ウェブサイトまたは往復はがきに下記事項をご記入の上お申し込みください。
〇ウェブサイト　公式サイト (https://www.dougukan.jp/kigumi) 内よりお申し込みください。
〇はがき　［往信用裏面］①イベント名（ご希望日時も）②参加者氏名（フリガナ）③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤年齢
［返信用表面］宛先に申込者の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。裏面は未記入のこと。
［申込み先］　〒651-0056 神戸市中央区熊内町 7-5-1　竹中大工道具館イベント係
※ハガキ 1 通につき 1 名様までお申し込みいただけます。※参加可否の詳細は締切日以降 10 日程度でご連絡いたします。
※ご記入いただいた情報は厳重に管理し、イベント以外の目的には使用いたしません。

開催情報

名称＝竹中大工道具館開館 35 周年記念巡回展
「木組　分解してみました」
会期＝2019 年 10 月 12 日［土］～ 12 月 15 日［日］
会場＝竹中大工道具館 1F ホール
開館時間＝9:30～16:00（入館は 16:00 まで）
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）
入館料＝一般 500 円、大高生 300 円、中学生以下無料、65 歳以上の方 200 円
※常設展観覧料を含む
主催＝竹中大工道具館
後援＝神戸新聞社
公式サイト＝https://www.dougukan.jp/kigumi
※本展は、2020 年にかけて名古屋・東京・広島・札幌の 4 会場を巡回します。

広報用画像

・画像データ 1～16（JPEG）をご提供いたします。メールにてお申込みください。画像データをメールにて送信いたします。
・画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさらないでください。
・掲載記事・番組内容について情報確認のためにゲラ刷り、原稿の段階で下記事務局まで FAX 送信ください。
・お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに 1 部ご寄贈願います。

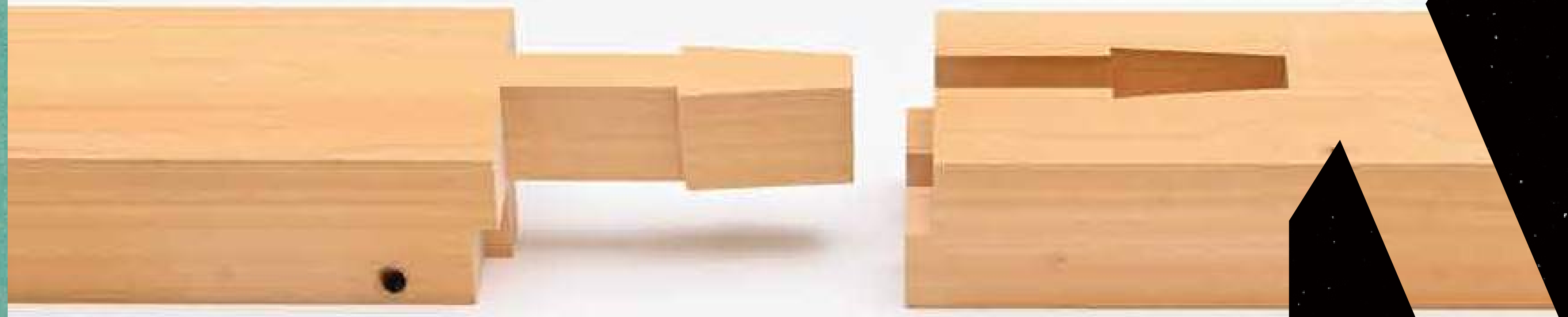
＊読者プレゼントとして当館招待券ペア（2 枚）5 組を提供することができます。
＊その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。

【お問い合わせ】「木組　分解してみました」展広報事務局（竹中大工道具館内）
〒651-0056 神戸市中央区熊内町 7-5-1　TEL: 078-242-0216　FAX: 078-241-4713　E-mail: kigumi@dougukan.jp

当館のご案内
日本で唯一の大工道具の博物館「竹中大工道具館」は、大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて後世に伝えていくことを目的に設立されました。常設展は 7 つのコーナーに分かれており、唐招提寺金堂組物の実物大模型、五感に響くハンズオン展示などを通して大工道具の魅力をお伝えします。また博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じてもらえる場」となっており、建物の各所には大工や左官、瓦師などによる伝統の職人技をちりばめました。シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかくつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんでいただけば幸いです。

アクセス　山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約 3 分／市営地下鉄「新神戸駅」北出口 2 より徒歩約 3 分／シティ・ループ「12 新神戸駅前 (2F)」下車徒歩約 3 分／神戸市バス 2 系統・18 系統「熊内 6 丁目」下車徒歩約 2 分

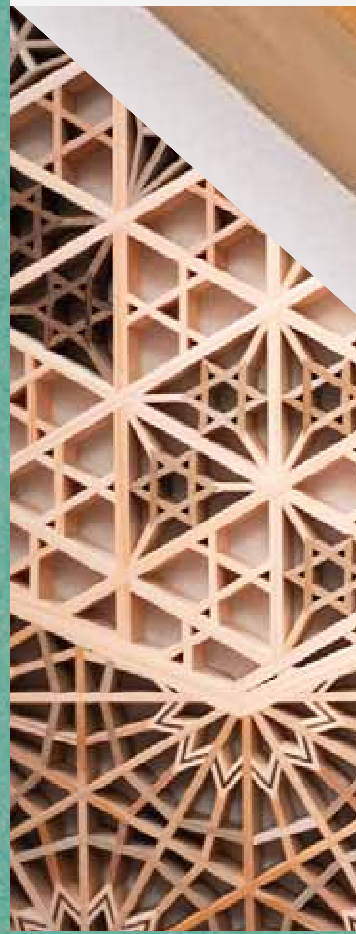
日本には木組の精神が息づいています。豊かな森林に恵まれたため、太古の昔から木に親しみ、木と木を組み合わせることで、さまざまなものをつくり上げてきました。日常生活に使う小さな入れ物から家具、住宅に至るまで何もかも木組で。しかしでき上がった作品の表面からでは世界に誇る職人の木組の技術や美意識は見えてきづらいものです。そこで本展では、いろいろな木組を分解してみることにしました。伝統的なものをはじめ、世界的にも珍しいもの、中身を知れば驚くようなものなど、さまざまな木組を分解した状態で展示します。合わせて西洋の木組やパズル的な木組も折り込みました。職人の手仕事ならではの美意識と心遣い、そして無垢の木ならではの柔らかな風合いと繊細さ。本展にて紹介する作品を通して、それら木組の魅力が伝われば幸いです。


1【腰掛け鎌継ぎ】

見どころ①

木組ってなんだ？

木の性質を利用して〈木と木を〉隙間なく〈組み合わせる〉ことで、木材は最も力強くかつ美しく表現することができます。接着したり、金物で接合するのではない木組の技を、見るだけではなくハンズオンや体験型イベントで実際に組んでみることで体感いただけます。



2【台輪留め】

見どころ②

隠れている部分を大公開！

木組はバラバラにすることで、はじめてそこに込められた意図や高度な技術が見えてきます。そこで、普段見ることのできない木組の中身、〈組んでいる部分〉を思いきって分解しちゃいました。建物だけでなく、工芸品や家具等の木組も、それぞれ違ってみんなスゴイんです！

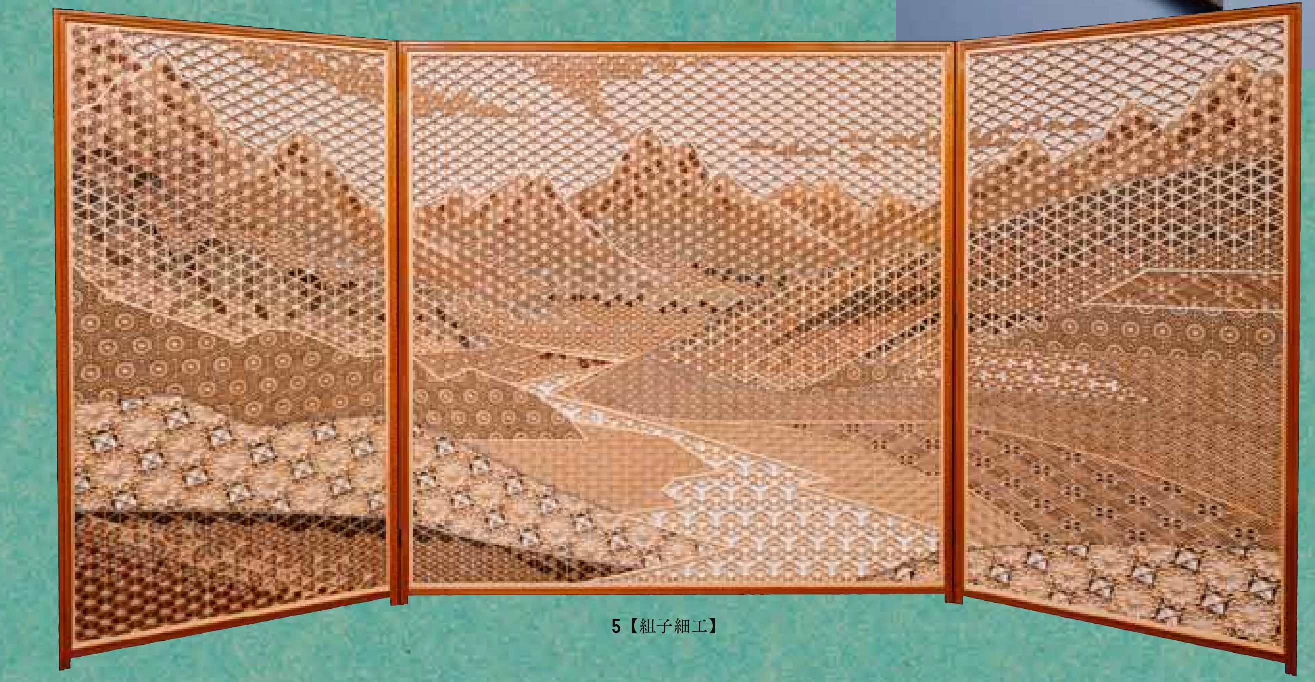
↑ 3【組子細工】部分

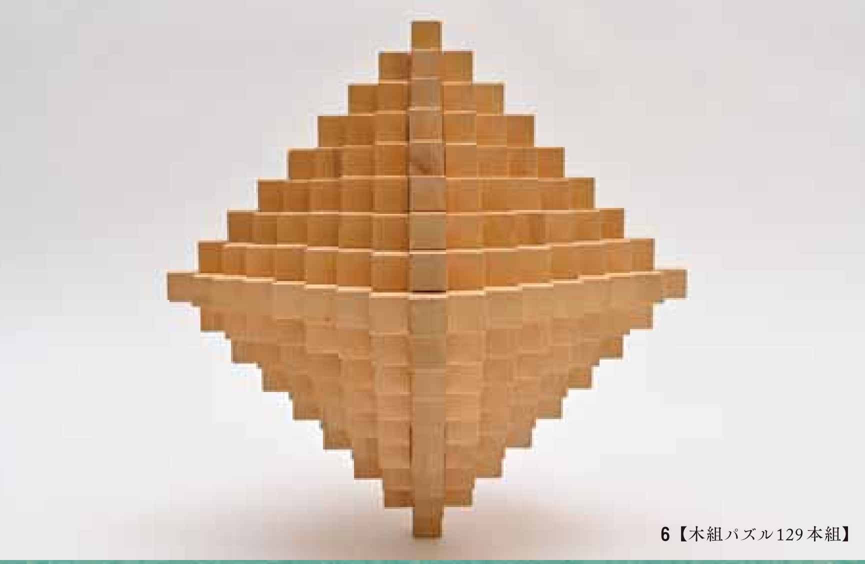
見どころ③

世界最高水準の技をご覧あれ！

大量生産のものづくりではなく、手仕事ならではの複雑な造形が生み出す造形。世界に誇る日本の木組、そしてその技術を使いこなす日本有数の職人の方々に、本展のために作っていただいた数々の作品をその目でお確かめください。

4【栅嵌装長方箱】


5【組子細工】


6【木組パズル129本組】

展示構成（展示総数約50点）

7【杉丸太の捻子組】

1 継手、仕口ってなに？

古来より伝えられてきた木と木をつなぐ技法には独特の造形の面白さがあふれています。ここでは木造建築には欠かせない木組から、基本のカタチを紹介します。

9【円覚寺舎利殿組物原寸模型】

2 木組はどのように変わってきたのでしょうか？

木造建築の木組は丸太からはじまり、戦後には金具、そして工作機械による製作が登場し、今に至ります。また寺社建築の、大きな木材を組み合わせた原寸大の迫力ある木組も見物です。

8【金輪継ぎ】

3 西洋の木組はどんなもの？

曲線的でもあり、入り組んでもいる。日本ではなかなか考えられない、三次元の曲面どうしを組み合わせる西洋独自の技術を用いる木組の中から、フランス建築の木組をとりあげます。

10【フランス式架台】

European Style

11【フランス式庇（ギタード）】

極めて細かく、正しく、美しく

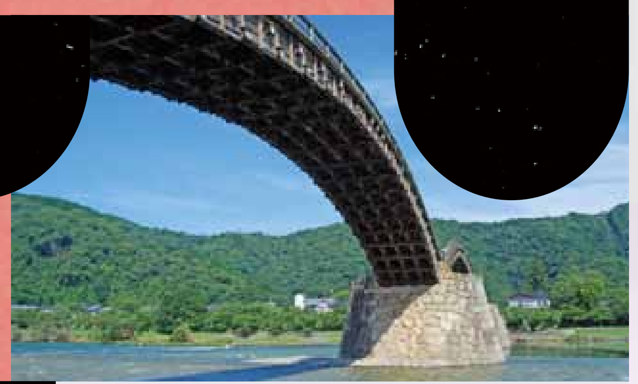
12【栅嵌装長方箱】

4 繊細なる木組

木工品の中でも特に正確な設計と熟練の技術を必要とする組子と指物に着目し、建築の世界の木組とは異なる、それぞれの分野独特の木組と、日本屈指の職人による作品を展示します。

13【水組】

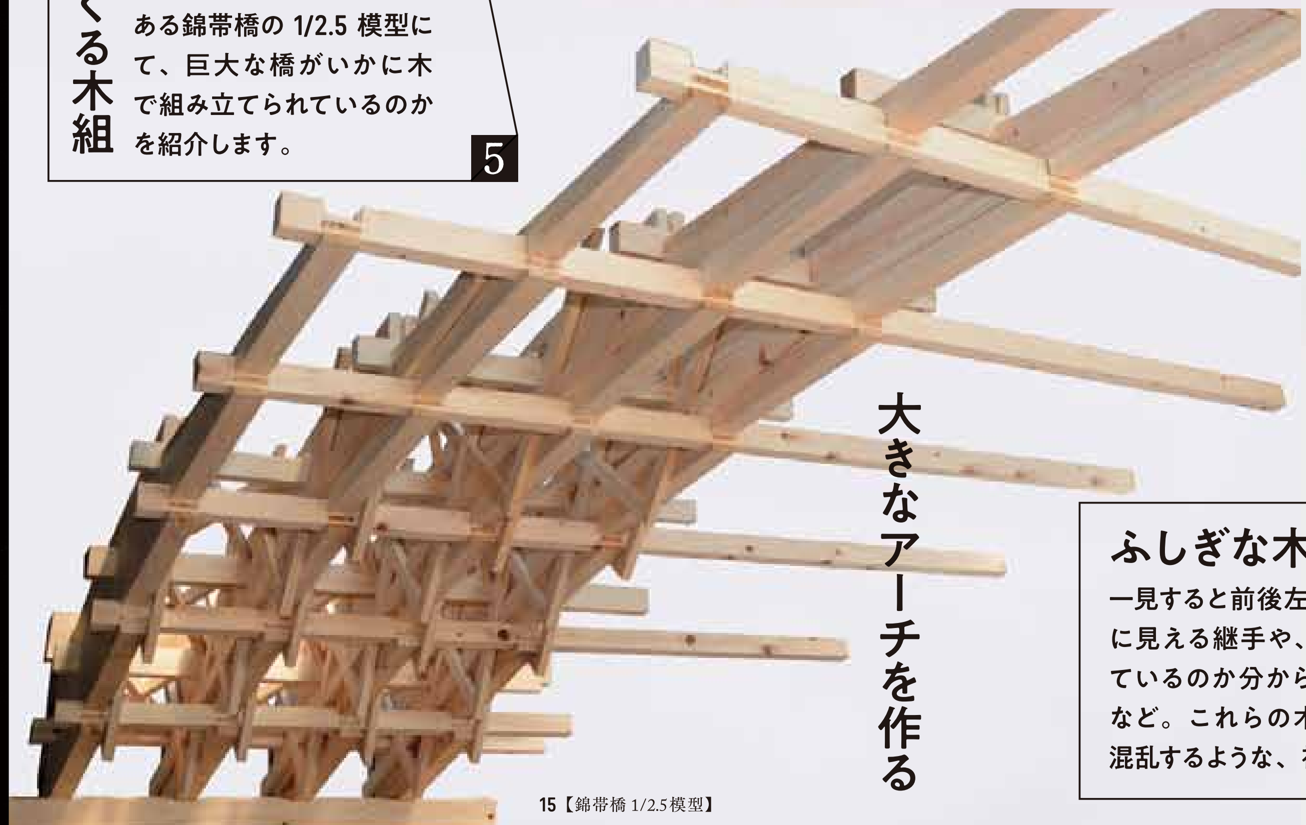
14【石畳千枚組接】



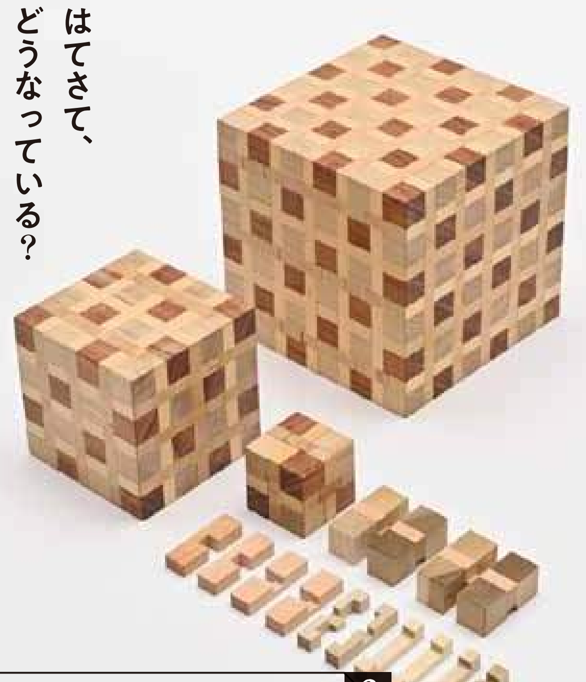
5 橋をつくる木組

日本、さらに世界的にも珍しい、木によるアーチ構造。日本三名橋のひとつとも言われる、山口県岩国市にある錦帯橋の 1/2.5 模型にて、巨大な橋がいかに木で組み立てられているのかを紹介します。

大きなアーチを作る


15【錦帯橋 1/2.5模型】

はてさて、どうなっている？


16【木組パズル 市松組】

6 ふしぎな木組たち

一見すると前後左右どこからもはめ込めないように見える継手や、もはやどこをどう組み合わせているのか分からないのような立体木組パズルなど。これらの木組からは、感心するような、混乱するような、複雑な感覚が生まれます。